第２８号

静岡県裾野市議会議員
～働く人も住む人も“居心地のよい”まちづくり～

発行責任者：三枝利之

中村じゅんや　議員だより

連絡先（事務所）：〒410-1107　静岡県裾野市御宿１５００　全矢崎労働組合裾野支部内
〈TEL〉055-997-1336　〈E-Mail〉junya_shizunaka@office.tnc.ne.jp
〈FAX〉055-997-5745　〈URL〉http://www.junya-susono.club/

霧が晴れる気がしない雰囲気、これはなんだろう！？

ある時から合言葉のように使われて始めた「金がないから、やりたくてもやれない」という言葉。今では遠慮もなく平然と使われ、新しい施策は無理かのような雰囲気が蔓延っている気がしませんか？　そもそも住民は新しいことを次々やってほしいのではなく、目の前の課題、将来への不安を払拭する策を講じて、裾野市で過ごす時間を充実させたいと思っているだけ。「もっと作ってほしい」でも「もっと配ってほしい」でもないはず。それなのに、なぜ市に課題解決の相談をすると「お金」の話になっちゃうんでしょう？　おそらく、その部分がモヤモヤが続くこのまちの今を映し出している理由かもしれません。住民として誰かに頼ってばかりいたのでは、時間がもったいないかもしれない。自身の人生をどう積み上げるか、そのために自分は何をするか、そして何を選択して行くか。霧の向こう側を見据えた切り替えが必要ではないでしょうか。

【3月臨時会、6月定例会】企業からの寄付で、岩波駅周辺の整備が動き出す。

■岩波駅周辺整備に７億円超の寄付

- なぜいきなり多額の寄付が？
- 市の赤字はこれで解消？
- 他の事業に寄付金は使えるの？

ウーブンシティの発表で望む望まないに関わらず、あらゆる人・企業等から注目が集まっていますが、市は、それの期待に応えるだけの自由に使える財政力を持ち合わせていません。

それを理由に何もせずにいるなんてあり得ません。知恵を絞り、注目する企業からの投資を誘導できないか模索し、総務省推進の企業版のふるさと納税制度の認可を受けることにしたのです。
認可された市への寄付は控除対象となるため、一部の企業にとってはメリットともなります。
この認可を受けるには、具体的に[どこで][何]ををするために[幾ら必要か]を示す必要があります。

裾野市は、[岩波駅周辺]に[将来を見据えた暮らしや活動を支えるまち事業（先進技術を活用した次世代型近未来都市の形成に資する事業）]を申請、目標金額を4年で48億円と設定しました。
集まる寄付（投資）を積み立てる基金も設置。
ですので、、、

- *当面は、岩波駅周辺事業のためだけの財源。*
- *寄付で、赤字解消とはならず。ただしこの事業をどう回すのかがポイント。手腕が問われます。*

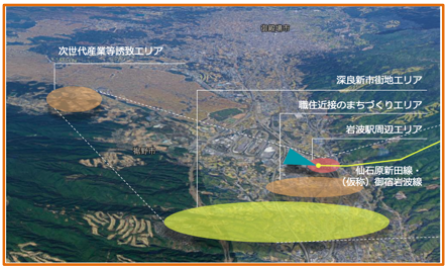
■岩波駅周辺の整備って何？

- どんな整備を行う予定なの？
- 周辺ってどこまで？
- なんで岩波を整備するの？

すそのでウーブンシティが創り続けられることは、交流人口や企業注目の増加に関して、千載一遇のチャンス！そこに近い岩波駅周辺で、未来技術を感じられるようなまちづくりをめざす。

抱える地域の課題をその時代の最新技術で解決・解消していくような融合都市を目指し、今も未来も住み続ける住民にとって、安心・安全な住環境が継続するまちづくりの構想としている。

岩波駅周辺をこの構想のステップ１としてスタートするが、これまで進めてきた活動とも重ね合わせ、工業地域への企業誘致や、ミライエート御宿への定住、深良まちづくり構想との融合など進め、その波及効果が、裾野市域全域へと広がるよう仕掛ける構想となる。



※裾野市北部地域まちづくり基本構想参照　→

所属している地域団体の奉仕活動と、行政施策が融合する仕組みに取り組みました。

市民協働という言葉。できる人ができることに取り組み、その成果は自身も含めた関係者に効果をもたらす仕組みだと思っています。でも時にそれは、言葉に名を借りた押し付けともなりかねない状態が世の中には見受けられています。行政の役割は、自分毎として取り組んでくださる市民が動きやすくなるよう所管の制度などを調整したり、関係者との調整を図ったりすること。決して、補助金を出して終わりでも、その団体に優先的にやらせて終わりでもありません。上下関係ではなく、対等で互いを支え合うことで成り立つという、真の仕組み構築を積極的に展開いただきたいと思います。

●ヘアドネーション活動

～裾野ライオンズクラブ(LC)と小中学校～

内容：小児がんと闘う方にウィッグを無償提供

狙い：髪の提供者の努力に敬意を表したい。
髪の提供者を増やしたい。
支援参画者を増やしたい。

仕組み：提供者が、LC経由で髪を送付
ＬＣが、提供者に感謝状を発行
児童生徒には学校で、感謝状を贈呈。

ちょっとしたことですが、その一つの行為に多くの方を巻き込むことで、参画者は現れるもの。5月にスタートした活動ですが、児童生徒さんから早速申込みを頂けました。
想いがある方に、方法を明示することで行動に繋げられることもあるようです。

●街路樹の樹種転換と産物PR活動

～嶽南ふるさと＆リバーフレンド富岡と
裾野市薄層表土緑化事業～

内容：みんなで管理しやすい街路樹への転換

狙い：放置される街路樹を減らしたい。
近隣住民が管理しやすい街路樹にしたい。
裾野市の技術の活用方法を広げたい

仕組み：　行政が無管理街路樹を抜根
薄層表土苗木を植樹し、地域で管理。
実証実験を開始し、ＰＲ。

屋上緑化として東京に売り込んだ薄層表土苗木ですが、申し込みは低調。厚さ10cm、90cm四方の土壌だけで済む特色を利用し、街路樹としての活用を提案。万が一の時でも今よりずっと楽に撤去することもできる苗。全国の街路樹の課題解決に繋がってくれることを願い、実証実験中！

景ケ島交差点

各種活動のご紹介

●矢崎の藤本よしお議員 4期目当選しました！

島田市で活躍されている、先輩組織内議員の藤本さん。皆様のご支援のお陰様を持ちまして、無事当選し、３期目に引き続き4期目も副議長としてスタートすることになりました！
議員は、使ってなんぼですよ！

●市街化調整区域に関わる各種規制について合同勉強会

会派未来すそのでは、今後のまちづくりにおける適正な規制のあり方を研究しています。調整区域の土地利用と農地法は切っても切れない関係。新会派の「真政会」さんと合同で、それらの規制について、合同勉強会を開催しました

●モーニングセミナーに参加

倫理法人会さんのモーニングセミナーで、市の財政状況とこれから進む岩波近隣のまちづくりについて、私の考え含めて、報告いたしました。会員の皆さまからも、率直なご意見を頂き、貴重な時間を過ごすことができました。

Facebookで日頃の活動を配信中です。

ご意見、ご要望のほか、後援会入退会など、お気軽にご連絡くださいませ。